

中央大学剣道部 男子団体

学生 日本一

学生剣道の男子団体(7人制)優勝を決める第66回全日本学生剣道優勝大会は10月28日、大阪市で行われ、中央大学が接戦を制して24大会ぶり13回目の優勝を果たした。



出場選手を応援する中大陣営

24大会ぶり13回目 最強のチームワーク

学生剣道の「応援は拍手のみで行い、声援は禁止する」とされている(全日本学生剣道連盟)。

先鋒は引き分け。次鋒の1年生・清家羅偉選手(法1)が2本勝ちすると、中大陣営から拍手、拍手、また拍手。

しかし日本代表で世界選手権(9月・韓国)優勝経験のある星子選手に敗れるなど4人までで1勝2敗とリードされた。

劣勢を跳ね返したのは中大5人目の本間渉選手(法3)だ。

関東男子個人3位の実力者が、一瞬のスキを突いて渾身のメンを決めた。手を叩く勢いが一段と増した。

決勝の相手、筑波大は最近7年間で優勝4回、今大会は連覇を目指した。中大は第1回、第2回大会の優勝校ながら、最近7年間の戦績は準優勝3回。

「今年も」「今年こそ」。気迫と気迫がぶつかるなか、中大の実力者が奪った貴重な1本。

後に控える全日本学生個人3位の丸山大輔選手(法3)、大将の染矢椋太郎選手(法4)が共に、1本奪取に気負う相手を落ち着いた試合運びで引き分けとし、優勝に導いた。

2勝2敗3分けの接戦を取得本

数「1本差」でものにした。

13回目の男子団体・学生日本一だ。過去に準優勝9回、3位12回。66回を迎えた伝統ある大会の半分以上、表彰台に上がった。

名門復活を全国に知らせた瞬間、左腕の白いCマークが輝く白星に見えた。

たなもとれん 棚本廉主将(法4)は「自分たちの代はみんなが着実にポイントを取って、次へつなげる。チームワークが絶対条件、全員でつかんだ優勝です」と話し、総合力の勝利と表現した。

表彰式で中大選手9人は一人ずつ優勝メダルを授与された。「うれしかったです」とキャプテン。表彰状、優勝旗、優勝盾、トロフィーが複数あって、授与のたびに選手が交代で正面へ。うれしい忙しさだった。

寮生活を大会仕様に

優勝旗奪回に向けて、棚本主将ら4年生は寮生活を大会仕様に変わっていた。

早めの消灯、早めの就寝、早めの起床。「睡眠をしっかりとることに特に気を遣いました」。気になりがちなスマートフォンは遠ざけた。





異彩を放った本間選手(右)



厳しい部内戦

風評を跳ね返してやろう、との固い決意があった。

自身の入学以来、3位、準優勝、ベスト16。「中大は強いけれど優勝はしない」と他校選手らのひそひそ声が耳に残っていた。

悔しさが、もともとあった実力を後押し、稽古がいっそう充実した。

中大剣道部には「部内戦」と呼ばれる、主要大会出場選手を決める内部選考がある。

稽古態度、普段の努力も評価されるが、決め手は部内戦。勝者が試合に出る。

「いつも優しい北原監督もときには冷徹になります」と棚本主将。実力者が選ばれた9月の関東男子団体に準優勝。頂点が見えてきた。

主将は、あすは全日本学生優勝大会という大阪のミーティングで、こう呼び掛けた。

「優勝できる稽古はしてきた。準備もしてきた。力を出し切ろう」。

呼応する選手たち。たぎるような闘志は試合会場で存分に発揮された。

優勝は第42回大会・1994年以来24大会ぶりだった。

当時の主将が現在の北原修監督だ。優勝監督は表彰式終了後、選手一人ひとりと強く握手した。

「よく頑張ってくれた。おめでとう。ありがとう」

中大陣営は心奥よりの歓喜に包まれた。



写真提供＝「中大スポーツ」新聞部
剣道部担当＝千葉祐一（経3）、木下唯（文2）、廣瀬愛（法1）

優勝までの道

出場選手

棚本 廉(法4)
染矢椋太郎(法4)
川井 太誠(経4)
本間 渉(法3)
丸山 大輔(法3)
鈴木 雄弥(法2)
河寄 遼(商2)
清家 羅偉(法1)
黒木裕二郎(商1)

戦績

▽1回戦	中大	7-0	札幌大
▽2回戦	中大	5-1	立正大
▽3回戦	中大	6-0	亜大
▽準々決勝	中大	2-0	慶大
▽準決勝	中大	2-1	日体大
▽決勝	中大	2-2	筑波大
		(3)-(2)	

決勝(丸数字は段位)

黒木③	引き分け	橋本③
○清家③	メコ	松崎③
鈴木③	メ	多賀谷④○
川井④	メ	星子③○
○本間④	メ	田内④
丸山③	引き分け	佐藤③
染矢④	引き分け	初田④

中大スポーツ

CHŪDAI SPORTS

▽部会の目標
報道する知性

▽発行時期
4月号 / 7月号 / 9月号 / 11月号
/ 1月2日・箱根駅伝特集号 / 1月号

OB・OG 探訪／過去記事一覧

掲載号	登場人物(肩書は当時、敬称略)	誌面タイトル
2018秋	剥製標本、骨格標本製作・内田晃	保存状態良ければ「100年、200年は大丈夫です」
18春	伊藤俊輔衆議院議員	挑戦から5年で初当選
17冬	落語家・三遊亭じゅうべえ	スウェーデンから落語界の新星誕生
17秋	プロゴルファー・北村晃一	現役ただ一人の中大出身者
17夏	シチズン時計・赤尾祐司	時計の長寿化に成功、国民の社会生活に貢献 平成29年度文科大臣賞受賞
17春	協働ステーション中央業務統括責任者・杉原志保	NPOでプロとして働き女性の活躍の場を広げる
16冬	JR上野駅駅長・野木肇雄	変わらぬ鉄道愛できょうも心の駅に立つ
16秋	全国出版協会理事長・上瀧博正	焼け野原の東京には夢と希望がいっぱいあった
16夏	読売巨人軍・香坂英典	中大のエースから巨人軍ファン事業部長
16春	司法試験合格・西村和浩	通教へ一念発起 未来の扉開く
15冬	親子三代表彰者・鶴精三、靖子	ボランティア活動が夫婦の原点
15秋	森ビル・平野文尉	都市を創り、都市を育む
15夏	弁護士・梁瀬峰史	箱根駅伝3度出場、司法試験合格
15春	トライアスロン・白戸太郎	中大で人生変わった 我が良き南平寮の仲間
14冬	ディスカヴァー・トゥエンティワン・佐藤昌幸	取次店なしで118万部超ベストセラー
14秋	アパホテル専務・元谷拓	売り手よし、買い手よし、世間よし
14夏	フリーアナウンサー・曾根純恵	「今を伝える」発信は一瞬 準備はエンドレス
14春	大リーグ評論家・福島良一	年間500試合以上見る
14早春	落語家・桂やまと	中大落研初の真打誕生
13冬	ザ・ウォールストリート・ジャーナル上席特派員・伊藤辰雄	アベノミクス記事を世界に発信する
13秋	四谷図書館・遠藤ひとみ	メイド・イン・ミンカン 「知のインフラ」
13秋	プロゴルファー・タケ小山	お父さんの心をつかむ 屋根裏のプロゴルファー
13夏	女性自身記者・高田晶子	3年は続けてみる
13夏	毎日新聞「キャンパル」編集長・内山勢	記者30年、気持ちは学生と一緒に
13春	ボブスレー・浅津このみ	1人3役、無駄なし 24時間管理術
12冬	落語家・林家つる子	芸人です 輝いていたい
12冬	日本生命・遠藤有希	仕事が楽しい
12冬	八千代エンジニアリング・内山麻希	ペンの力を持つソルジャー
12冬	医学博士・藤井輝明	この顔でよかった
12秋	TBS・武方直己	テレビはやっぱりマスメディアのNo.1
12秋	文化放送・寺島尚正	税理士志望がアナウンサーに
12秋	長命寺住職・小林昭彦	中大卒で天台宗の最高位僧に
12秋	医学ジャーナリスト・松井宏夫	過酷なフリーランスを勝ち抜いた
12夏	落語家・柳家さん喬	米国で落語教えています
12夏	タニタ食堂・南修二	大成功のヒミツ

(注) 一部、タイトルを「人ーかお」とした掲載号あり。